



ほけんだより



令和6年7月1日
もりのなかま保育園 中野栄園
病児保育室看護師
小野寺

7月に入り、どんどん気温が上がってきましたね。この時期は水遊びが始まったり、お祭りがあつたりと楽しいイベントがいっぱいです！
特に夏になると増えてくる病気をお知らせします。予防しながら暑い夏も元気に過ごしましょう



☆とびひ（伝染性膿痂疹）

患部が乾燥しているかガーゼで被覆できる程度であれば登園可

水ぶくれができるものと、かさぶたができるものがありますが、暑くなると増えてくるのが水ぶくれができるとびひ。接触感染します。

虫刺されやあせもなどをかいたことにより、そこから細菌が入り、皮膚の赤みやかゆみが出てきたりします。ひどいときは発熱することも…

対処法

- ①とびひになった場合は優しく患部を洗う
- ②肌に触れるものは共有しない
- ③皮膚をかいてしまう場合はガーゼなどで覆う
- ④ガーゼなどを使用する場合小まめに交換する



☆熱中症

気温、湿度が高いと体温調節が上手くいかなくなり、めまい、だるさ、吐き気、嘔吐、脱水症状などを起こす危険な病気です。

対処法

- ①小まめに水分をとる（喉が渇いてから水分をとるのではなく、時間を決めて取るなど小まめにとることが重要です！）
- ②塩分補給をする
- ③日傘や帽子を被ったりをして日光が直接当たらないようにする
- ④高温多湿なところや、外に長時間いないようにする

☆咽頭結膜熱（プール熱）

症状がなくなってから2日経過するまで登園できません

アデノウイルスに感染したことで、高熱やのどの痛み、結膜炎などの症状が出る病気です。下痢などの症状が出る人もいます。

対処法

- ①直接皮膚に触れるもの（タオルなど）は共有しない
- ②アルコールが効かないので、しっかり手洗い、うがいをする。

